

令和4年11月30日

瀬戸市議会議長 水野 良一 様

厚生文教委員長 長江 秀幸

厚生文教委員会 行政視察報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察期間・行程	令和4年11月9日(水)～令和4年11月10日(木) 詳細は別紙の通り
2 視察先	静岡県富士市 (人口249,390人 令和4年4月1日現在) 神奈川県平塚市 (人口257,733人 令和4年11月1日現在)
3 視察項目	静岡県富士市・・・ユニバーサル就労支援について 神奈川県平塚市・・・保育士支援事業について
4 視察者及び随行者	厚生文教委員長 長江秀幸 副委員長 新井亜由美 委員 高島淳 富田宗一 馬嶋みゆき 中川昌也 高桑茂樹 宮藺伸仁 長江公夫 随行者 社会福祉課長 稲垣和宏 保育課長 水上弥生 議会事務局 伊藤昌代
5 その他	

ユニバーサル就労について

<p>1 事業の目的及び経緯</p>	<p><b>ユニバーサル就労の目的</b></p> <p>様々な理由により働きたくても働くことのできない状態にある全ての人々が自ら選択した仕事に就けるよう支援し、全ての市民が生きがいを感じながら安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与すること。</p> <p>※富士市では「働きたくても働けない人」が、推計9千人おり、その内、高齢者以外が5千人と算出された。</p> <p><b>富士市のユニバーサル就労のあゆみ</b></p> <p>2014年11月 市民の署名活動ユニバーサル就労を拡げる親の会が、「ユニバーサル就労に積極的な企業の誘致及び支援を求める要望書」に19,386筆の署名を添えて、市長に提出</p> <p>2015年2月 富士市議会ユニバーサル就労推進議員連盟（以下、議連）設立</p> <p>2016年3月 市が調査・検討を開始</p> <p>2016年5月～11月 議連内に「条例検討チーム」「事業検討チーム」を設置し、市と市議会が協働して条例・事業内容を検討</p> <p>2017年2月 議会発議による「富士市ユニバーサル就労の推進に関する条例」全会一致で成立</p> <p>2017年4月 全国初の「富士市ユニバーサル就労の推進に関する条例」を施行「富士市ユニバーサル就労支援センター」開設</p> <p>2017年6月 市議会に「ユニバーサル就労推進特別委員会」設置</p>
<p>2 事業の概要及び事業費</p>	<p><b>基本理念</b></p> <p>富士市ユニバーサル就労の推進に関する条例の第3条では、働きたくても働けない状態にある全ての人々がその個性や意欲に応じて能力を発揮し、社会を構成する一員として社会経済活動に参加する事を基本とし、第4条では市の責務、第5条では市民の責務、第6条では事業者の責務、第7条では事業者団体の責務が定められ、富士市をあげて</p>

	<p>推進するものとされている。</p> <p><b>支援体制</b></p> <p>2019年度までは既存の相談窓口や就労支援機関が複数存在していたが、2020年度から窓口を一本化し、相談から就労までをワンストップで一体的な支援を可能にした。</p> <p><b>協力企業</b></p> <p>ユニバーサル就労の理念に賛同し、職場見学や就労体験、雇用の受け入れを申し出た事業所を協力企業として認定し、2022年10月末時点で197社認定している。業種の内訳は、製造業4割で、その他はサービス業、医療・福祉、運輸業などである。</p> <p>業務の切り出しで仕事を用意するなどの工夫もしている。</p>
3 事業の効果	<p><b>市民にとって</b></p> <p>開始から5年目で705名の登録があり、就労できた方は413名（就労率58.5%）。</p> <p>当事者の一人の「これまで本当の自分を隠して働いてきたが、今は本当の自分のまま仕事を探し働くことができる」という声が紹介され、本来の自分に合った仕事に就くための支援となっていることがよく分かった。</p> <p><b>企業にとって</b></p> <p>企業の参加理由は「社会貢献したい」「人手不足の対策としてユニバーサル就労を活用したい」であり、職場体験を通して雇用前に「人を見ることができ」「これまでの選考方法では見逃していた人材に出会えた」「業務の改善効率化のきっかけになった」などの声が寄せられている。雇用のミスマッチが防止できている。</p> <p><b>富士市にとって</b></p> <p>令和2年7月に、SDGsの理念に沿った基本的・総合的取り組みを推進している都市・地域の中から、特に経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発をするポテンシャルが高い都市として、SDGs未来都市に選定された。</p> <p>令和2年9月に、富士市SDGs未来都市計画を策定しユニバーサル就労の取り組みを推進している。</p>

<p>4 事業の現時点で課題及び今後の方向性</p>	<p><b>ユニバーサル就労と教育</b></p> <p>学校で、SDGs に関連してユニバーサル就労について伝える機会があったが、伝え方に困った経験がある。子どもたちに固定観念を受け付けないようにすることと、将来の安心を同時に伝える事は簡単ではなく、配慮と工夫が必要であり、今後も教育委員会との連携が必要である。</p>
<p>5 主な質疑・応答</p>	<p>Q：支援員や相談員の人数は何名か  A：7名体制で企業開拓、広報活動、相談支援を実施している。</p> <p>Q：大人の引きこもりの方などへのアウトリーチはどのようにしているか  A：8050問題の80世代を支援している地域包括支援センターや民生委員などとも、活動内容を共有することでネットワークをはり協力して支援をしている。</p> <p>Q：業務の切り出しでかえって効率が悪くなることはないか  A：協力企業には製造業が多く、元々分業化されておりその中のマッチする業務の種類や時間でマッチングしていくため総合的には効率が良くなったとの声も寄せられている</p>
<p>6 考察(所感・本市への提言等)</p>	<p><b>全般的なこと</b></p> <p>富士市の推計を、本市に当てはめてみると人口が約半数として、働きたくても働けない人が約4,500人(内高齢者約2,000人)になる。約4,000人を超える就業増加期待数があり、適切な就労支援を行う必要がある。</p> <p>ユニバーサル就労は、年齢や障害の有無で区分されがちな働く場所や支援の仕方を、根本的に変えていこうとすることであり、利用者と企業の双方の支援を行うことになる。その具体的な支援の在り方について、本市でも研究する必要がある。</p> <p>本人の能力に見合った仕事につける「支援」は、事前の職場見学・就労体験などを十分に行っている。企業も利用者も双方が十分に検討することが可能となり長期就労につながると感じた。</p>

	<p>就労に至らなくても、支援の過程に大きな意味があり、事業として成果はもちろん大切だが一人ひとりを大切に、自己肯定感を高めながら焦らず企業とマッチングさせていくことが重要と感じた。</p> <p>1人1人に合わせたオーダーメイドの支援がなされ、これまで就労に結びつかなかった方への就労支援の在り方を瀬戸市も取り入れて行くべきであると感じた。</p> <p><b>相談支援体制</b></p> <p>相談支援体制の充実は、他の機関との連携・協力が欠かせないことは言うまでもないが、本市にはワンストップ窓口はない。「相談支援」と「就労支援」を一体的に行う機能を、本市の子ども・若者支援体制に組み込むことを考える必要がある。</p> <p>積極的に就労支援を行うには、専門的な知識と経験、ノウハウを持っている企業や団体との協働が必要と感じた。</p> <p><b>企業との連携</b></p> <p>企業との綿密な打ち合わせで信頼関係を構築していき「ユニバーサル就労支援事業」を組み込ませる業務を見いだすことができると感じた。</p> <p>協力企業の多さに驚いた。本市でも商工会議所やハローワーク等と協力していく必要があると感じた。</p> <p>&lt;議会&gt;</p> <p>本市でも就労支援事業はあるが、富士市では官民が一体となり、議会が支援している事業として成果を上げていると感じた。</p>
7 その他特記事項	

保育士支援事業について

<p>1 事業の目的及び経緯</p>	<p>湘南地域にある自治体として近隣自治体との地域間競争に負けないよう、保育士不足を解消し、子育てしやすいまちを目指す。</p>
<p>2 事業の概要及び事業費</p>	<p>保育士不足の解消に向けてインパクトのある事業を実施することで、平塚市以外に在住の方からも「平塚市で保育士になりたい」と思ってもらうための保育士支援事業が計画されている。</p> <p>3つの柱（就労促進貸付金・就労支援交付金・奨学金返済支援補助金）を中心として支援策、賃貸復権改修型保育所の整備などで保育士確保に努めており、保育士を目指している学生や、潜在保育士に対して、平塚市で保育士として働いてもらえるよう制度の周知に力をいれている。</p> <p>保育士就職応援フェアは年に4回開催し、来場者が自由にブースをまわり園の様子や採用情報を直接聞いてもらえるようにしている。</p> <p>1. 就職促進貸付金</p> <p>他の市区町村から平塚市へ転入し継続して居住しながら、平塚市で保育士として勤務する方に、最大100万円の貸し付け。5年間継続したら返済全額免除、3年継続で一部免除。</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>2017年度（H29）3人（300万円）2人が5年満了          2018年度（H30）4人（400万円）1人が継続          2019年度（R1）3人（300万円）1人が継続          2020年度（R2）9人（900万円）8人が継続          2021年度（R3）9人（900万円）9人継続          2022年度（R4）4人 ※10月現在</p>

## 2. 就労支援交付金

平塚市で保育士として働く方に、月1万円の就労支援金を交付。1年間就労継続で12万円、最大3年度分36万円交付。

### 【実績】

2018年度（H30）546万円

2019年度（R1）1,097万円

2020年度（R2）1,396万円

2021年度（R3）1,383万円

## 3. 奨学金返済支援

奨学金を返済しながら平塚市で保育士として勤務する方に、1年間の奨学金返済額の2/3、上限20万円まで補助。最長で5年度分まで継続でき最大100万円の補助。

### 【実績】

2020年度（R2）200,000円

2021年度（R3）75,069円

## 4. インターンシップ事業実施支援

実習先以外の保育園の職場の様子をしっかりとらうため、インターンシップとして有償で働く学生を受け入れるための支援。

### 【実績】

2018年度（H30）530,821円

2019年度（R1）1,165,759円

2020年度（R2）784,978円

2021年度（R3）1,250,833円

## 5. メンタルヘルスケア実施支援

精神的な負担軽減や治療のための、受診やカウンセリング費用の補助。1回8,000円を上限とし1/2の最大4,000円補助。1人につき年3回まで。

	<p>【実績】</p> <p>2019年度（R1）12,000円</p> <p>2020年度（R2）36,000円</p> <p>2021年度（R3）52,000円</p>
3 事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士支援制度の利用が徐々に増えてきており、市外からの定住者が少しずつ増えている。</li> <li>・インターンシップ制度の利用で、保育士と保育園のアンマッチが防止できる。</li> <li>・平塚市のある保育園で事件があり報道された保育園では、メンタルケアを必要とする保育士が発生し、メンタルヘルスケア実施支援でサポートできた。</li> </ul>
4 事業の現時点で課題及び今後の方向性	<p><b>周知の強化</b></p> <p>市のホームページだけでは周知が行き届かないため保育士就職応援フェアや保育士養成校への案内の他に、今後は、ホームページ上に特設サイトを設置し保育士確保事業等を知らせていく予定。</p> <p>神奈川県も保育士確保の取り組みを県の社会福祉協議会に委託しているため連携していく。</p> <p><b>保育の質の確保</b></p> <p>調査は実施していないが、保護者からの苦情は減っておらず、保育の質の確保が課題である。</p>
5 主な質疑・応答	<p>Q：100万円の貸付け免除になる5年を経過した後も保育士は平塚市に定住しているか。</p> <p>A：市外から市内に転居して保育士として働くことが条件であり、現在の所6年目で直ぐに退職したという情報は届いていない。</p> <p>Q：貸付金を直接市から保育士へ貸し付けるのではなく、保育園が間に入るのはなぜか。</p> <p>A：市と保育士よりも、園と保育士の方が関係性が近いため、退職した時の返済がスムーズにできると考えたため。</p> <p>Q：第三者評価は行っているか。</p> <p>A：平塚市では実施しておらず、各園に任せている。</p> <p>Q：瀬戸市では障害児の受け入れが公立園に偏っている</p>



	<p>が平塚市ではどうか。</p> <p>A：平塚市でも年々増えている。理想は自宅から近い保育園に通ってもらうことであり民間園にも受入れてもらいたいと思っているが、実態としては公立園が受けていることが多い。</p>
<p>6 考察(所感・本市への提言等)</p>	<p><b>支援策について</b></p> <p>100万円貸付事業(諸条件あり)は保育士さんにとって魅力ある事業であり、瀬戸市でも取り入れるべき事業と考える。</p> <p>待機児童ゼロ政策を進めなければ、子育て世代の定住は進められないし、他市町と同じ支援体制での保育士確保は厳しく、独自事業を行うべきであると考えます。</p> <p>インターンシップ事業はアルバイト勤務からスタート。園を知ることが安心できる就職へとつながると感じた。</p> <p><b>子育て応援</b></p> <p>平塚市では民間の保育園が多く、今後も小規模保育園で対応していくようであり、本市とは体制が異なるが、保育園に限らず、市全体で子育て支援をしている印象を受けた。本市としても保育の充実はもとより、更なる子育てしやすいまちになるよう取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>保育園の充実だけでなく、市内の商業施設等とも連携し、子育てをサポートする施設が各地区に多くある。</p> <p><b>待機児童解消</b></p> <p>待機児童解消の必要性と同時に、少子化に向けて保育施設が必要なくなった時に撤退しやすいよう、賃貸型で行うということは、本市においても考え行かなければならないことである。</p> <p><b>保育の質の確保</b></p> <p>国の保育士配置基準にプラスアルファの人員配置で余裕を持って保育にあたっており、職場環境の改善に大いにつながっていると考える。これによって業務負</p>

	<p>担軽減は離職防止にもつながると考える。</p> <p>待機児童を減らすためには箱物も大切だが、保育士の質の向上も必要であり、質の良い保育と教育を提供することは、人口増加に直結していくと感じた。</p> <p><b>独自の取り組みについて</b></p> <p>本市では、公立保育園の保育士確保が課題となっており、独自の支援策で、他の自治体との差別化を図ることが必要と考える。</p> <p>民間保育所ガイドブックが作成されているが、本市においてもこのようなガイドブックを作成すると良い。</p>
7 その他特記事項	